

指定管理者評価シート

事業名	青少年科学館等運営管理業務	所管課(電話番号)	教育委員会生涯学習部生涯学習推進課(211-3871)
-----	---------------	-----------	-----------------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市青少年科学館	所在地	厚別区厚別中央1条5丁目2-20
開設時期	昭和56年10月(平成9年3月第2期整備)	延床面積	10,017m ²
目的	科学及び科学技術に関する知識の普及啓発を通じて、創造性豊かな青少年の育成を図る		
事業概要	① 科学及び科学技術に関する資料及び装置の展示 ② プラネタリウム及び天文台による天文知識の普及啓発 ③ 科学に関する図書その他の資料等の収集・配布及び提供 ④ 科学及び天文に関する実習・実験及び講習会等の開催 ⑤ 科学館が収集し、又は展示する資料、装置等に関する調査研究及び他機関との協力		
主要施設	札幌市青少年科学館、札幌市天文台		
2 指定管理者			
名称	公益財団法人札幌市生涯学習振興財団		
指定期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日		
募集方法	非公募 非公募の場合、その理由： ・ 学校教育との連携や生涯学習施策の推進の観点から、施設における事業運営にあたり、札幌市と指定管理者が一体的に取組み、札幌市が積極的な関与を行う必要があるため ・ 科学館の管理運営を平成11年から継続的に担っており、十分な経験とノウハウ、専門的人材等を有しているため		
指定単位	施設数：1 複数施設を一括指定の場合、その理由：		
業務の範囲	① 総括管理業務 ② 施設・設備等の維持管理に関する業務 ③ 事業の計画及び実施に関する業務 ④ 施設の利用等に関する業務 ⑤ 前4業務に付随する業務		
3 評価単位	施設数：1 複数施設を一括評価の場合、その理由：		

Ⅱ 令和6年度管理業務等の検証

項 目	実施状況	指定管理者 の自己評価	所管局の評価																
1 業務の要求水準達成度																			
(1)統括管理 業務	▽ 管理運営に係る基本方針の策定 「知に親しみ、楽しさが共有される科学館」、「学校と協働する科学館」、「地域と手をつなぐ科学館」、「すべての人に開かれた、安心安全な科学館」、「環境に配慮した、効率的・効果的な運営」を基本方針・基本目標に掲げ、「科学に親しみ、科学を楽しむ。人々とまちに寄り添う科学館」の推進に寄与した。 ▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績 不当な差別的取扱いをしないため、市民からの意見や要望を聞く姿勢を常に持つとともに、札幌市青少年科学館条例や施行規則を遵守し、観覧料の減免等についても適正に取扱った。 ▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進 ▼ 電気、水道、地域熱等の使用については昨年導入された省エネ性能の高い機器類を、設備保守委託業者と効率のよい稼働方法について確認を行いながら、運用した。 ▼ 廃棄物については、できる限り細分化し、分別してから廃棄した。 ▼ 「環境科学展」の開催により、省エネ・環境配慮に関する情報を提供することで、市民への興味関心を喚起し、市民へのPRIに努めた。 ▼ 「秋のスペシャルウィークス エネルギーの未来を考えよう！」を開催し、人力発電や水素エネルギーについて体験を通して学ぶことのできる場を提供することで、市民へのクリーンエネルギーに関する興味関心を喚起した。	これまでの運営経験や培われたノウハウやネットワークを活かし、高度な学習機会を提供することができた。 条例・規則等を遵守し、市民意見の聴取や適切な広報を通して、団体・一般客の平等利用に努めた。 可能な限り効率的なエネルギー運用ができる環境整備に努めた。発生した廃棄物については、清掃業務委託業者とも連携し、可能な限り分別して廃棄した。近隣の企業や団体等と連携した、環境問題と対策技術の現状を学べる展示「環境科学展」や「秋のスペシャルウィークス エネルギーの未来を考えよう！」を開催することにより、市民に対して環境配慮や新エネルギーに関する知識を周知することができた。	<table><tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr><tr><td colspan="4">再開館後もこれまでの経験、ノウハウを活かした学習機会の提供を実施していることを評価する。引き続き、幅広い世代の市民に親しまれる事業の実施を期待する。</td></tr><tr><td colspan="4">条例・規則等に基づいた平等利用の取組を実施していることを評価する。引き続き、適切な取扱いを期待する。</td></tr><tr><td colspan="4">業者とも連携を図り、効率的なエネルギー運用ができる環境整備を実施したことを評価する。環境科学展においては、市内等の企業や団体と連携し、環境問題と対策技術の現状などについて、子どもたちにわかりやすく広めたことを評価する。</td></tr></table>	A	B	C	D	再開館後もこれまでの経験、ノウハウを活かした学習機会の提供を実施していることを評価する。引き続き、幅広い世代の市民に親しまれる事業の実施を期待する。				条例・規則等に基づいた平等利用の取組を実施していることを評価する。引き続き、適切な取扱いを期待する。				業者とも連携を図り、効率的なエネルギー運用ができる環境整備を実施したことを評価する。環境科学展においては、市内等の企業や団体と連携し、環境問題と対策技術の現状などについて、子どもたちにわかりやすく広めたことを評価する。			
A	B	C	D																
再開館後もこれまでの経験、ノウハウを活かした学習機会の提供を実施していることを評価する。引き続き、幅広い世代の市民に親しまれる事業の実施を期待する。																			
条例・規則等に基づいた平等利用の取組を実施していることを評価する。引き続き、適切な取扱いを期待する。																			
業者とも連携を図り、効率的なエネルギー運用ができる環境整備を実施したことを評価する。環境科学展においては、市内等の企業や団体と連携し、環境問題と対策技術の現状などについて、子どもたちにわかりやすく広めたことを評価する。																			

▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成) ▼ 業務分担、指揮命令系統、連絡系統を定めた。 ▼ 館長1名、課長2名、係長5名を配置した。 ▼ 充実したサービスを提供できるよう、適宜正職員・嘱託職員・契約職員・パート職員等の採用を行った。 ▼ 定期的に職員会議を行い、様々な問題について協議し、職員間で情報の共有をすることで、充実したサービスの提供に努めた。 ▼ 人材育成のため、動画を用いたeラーニングでの研修を実施するとともに、オンライン含めた外部研修等に参加した。また、財団の「人材育成基本方針」の「目指す職員像」に掲げる「自立型職員」へと成長させていくための第一歩として、職員の意識に訴えるような動画研修、全係長職員への一人90分間の面談、それに基づく組織分析、目標管理の体験(係長職、一般職)、その体験結果に基づく職位別(係長職、一般職)の集合研修などを業務委託により実施した。 ▼ 「財団就業規則」や「財団給与規定」に基づく勤務条件のもとで、適正な労働環境の確保に努めている。法定労働時間を超えての労働については、36協定を労使で締結し、労働基準監督署に届け出た。 ▼ 職員の安全と健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成を促進するために必要な事項を「財団安全衛生管理規則」や「衛生委員会設置要綱」で定め、衛生管理者を設置し衛生委員会を設けた。	適切な人員配置を行うとともに、効果的かつ効率的な施設運営を行い、サービスの維持確保に繋げることができた。 研修会等にも積極的に参加することで、職員の専門性の向上、技術の向上、意識の向上を図ることができた。 各種法令を遵守し、快適な職場環境を維持するよう努めた。	管理運営組織が確立されていることを評価する。他部署との情報共有を行い、意思決定できるよう組織体制づくりをさらに進めること。 研修会等については、対面の他、オンラインを活用するなど、職員の専門性、技術の向上に努めたことを評価する。専門性が求められる分野であることから、継続した人材育成を期待する。 就業規則や労使協定等については、研修や会議等の機会を利用し、職員への周知に努めていただきたい。
▽ 管理水準の維持向上に向けた取組 ▼ グループウェアを積極的に活用した業務体制づくりを進めるなどして、各部署間での迅速かつ正確な情報管理を行った。 ▼ 日常から事故防止に努めるとともに、マニュアルにより、事故発生時の迅速かつ適切な対応をし、事故原因についても迅速に改善、再発防止を心がけた。	これまでの運営経験で培われたノウハウを活かすとともに、IT技術を活用することで管理水準の維持向上につなげた。	グループウェア導入を機に、業務改善を実施するなどして会議回数を減らす等の科学館全体の業務プロセスの再構築をし、実質的な効率化が見えるよう期待したい。

▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

▼ 設備機器を適切に維持するため、電気技術等専門的な技術・資格を要する施設設備の保守管理を中心に、複数の業務を集約させ、再委託した。

施設の維持管理および展示物の保守管理を同一業者に委託することで、経費の縮減および業務の効率化を図ることができた。

工夫により、経費を削減したことを評価する。今後も長期的に経費が削減できるよう取り組むことに期待したい。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催回	協議・報告内容
第1回 7月11日	・令和5年度の来館者数と事業の報告について ・令和6年度の来館者数と事業の報告について(4～6月の報告) ・今後の事業計画について ・科学館の運営上の課題について
第2回 11月14日	・令和6年度の来館者数と事業の報告について(7～10月の報告) ・今後の事業計画について ・科学館の運営上の課題について
第3回 3月6日	・令和6年度の来館者数と事業の報告について(11～1月の報告) ・今後(令和7年度)の事業計画について ・科学館の運営上の課題について
<協議会メンバー> 北海道情報大学 副学長(現学長)、札幌市立百合が原小学校校長、札幌市立平岡緑中学校校長、札幌市厚別東地区青少年育成委員会会長、一般財団法人北海道歴史文化財団常務理事、札幌市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課長、札幌市青少年科学館館長	

学校関係者や学識経験者から当館事業の運営についてアドバイスをいただき、以後の事業運営に活用することができた。

科学館の運営管理における有意義な意見交換が行われる場となるよう、引き続き、協議手法について検討すること。運営委員会で寄せられた意見を具体化するためのスキームを検討すること。

▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)

▼ 資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとの区分経理を実施しており、公認会計士及び公認税理士による外部監査を導入し、適正に対応している。
インボイスや軽減税率、その関連事項などに注意して適性に処理した。

資金管理、現金等の取り扱いについては、取扱要領等に則り、管理体制を整備することで、重大な事故を起こすことなく、適正に管理することができた。

適正な資金管理が行われていることを評価する。今後も事故を未然に防ぐため、職員の意識啓発に努めていきたい。

▼ 流動性や利回り等に配慮し、金融機関及び金融商品の安全性に一層留意した対応を行っている。また、資産の健全性確保を図るため、「資産管理運用方針」等を定め、遵守している。		
▼ 現金等の取扱いを適正に行うため、「経理面で不正防止対策について」に則り、事故・不祥事を未然に防ぐ取組みを行っている。	規約の周知徹底を図り、事故なく適正に管理することができた。	
▼ 現金等の取扱いについては「小口現金取扱要領」に則り、適正に行っている。		
▽ 要望・苦情対応		
▼ 要望・苦情対応について報告書を作成し、職員に周知している。		
▼ 全ての職員が常に的確な対応ができるように、情報の蓄積を行い、対応方法等の情報の共有化を図ることで、迅速な対応に結び付けている。	要望・苦情については、報告書で残すとともに、回答についても素早い対応をすることができた。	苦情等については、利用者からの声を真摯に受け止め、さらなるサービスの向上に繋げることを期待する。また、要望・苦情に対応し、改善されたことが見える化するということにも努めていきたい。
▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)		
▼ 職員の接遇や施設の利用環境、事業に関する満足度を総合的に伺う「利用者アンケート」を実施した。各事業やイベントごとにアンケートを実施した他、冬休み期間中に館内で開催した冬の特別展に合わせて、会場前にてノベルティグッズとして特別展オリジナルキャラクターの缶バッジを配布してアンケートを実施した。寄せられた利用者の声は事業運営等に活かしている。	科学館全体に関する満足度については95%以上となり、高い満足度であることがわかった。科学教室や講座、移動天文台等の各事業においても、個別にアンケートを実施しており、人気のあるコンテンツは継続し、要望があるものは次回に反映するなどして、来館者が再び参加したいと思えるような魅力的な事業づくりに役立てた。	利用者の高い満足度がうかがえることを評価する。今後も目標数のアンケート数を回収し、運営に生かすことに期待する。

(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上	▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上(事故の有無などの安全衛生面を含む)		A B C D
	▼ 財団諸規則の見直しや、ハラスメント相談窓口を設置するなどし、適正な労働環境の確保に努めている。 ▼ 「財団就業規則」や「財団給与規則」に基づく勤務条件のもとで、適正な労働環境の確保に努めている。法定労働時間を超えての労働については、36協定を労使で締結し、労働基準監督署に届け出た。教育委員会からの助言があったことから、残業数を減らす意識を今一度組織で共有した。 ▼ 第三者委託により実施している業務について、受託者に当該業務従事者の労働環境に関わる情報提供を求めた。 ▼ 施設内での事故は無かった。事故防止対策として、適宜職員が巡回を行う他、動線を確保し利用者がつまづかないような環境を心掛けている。展示物やカウンターには、子供が転倒して頭をぶつける可能性もあることから、ソフトコーナー(角につけるカバー)を取り付けている。 ▼ 札幌市ワーク・ライフ・バランス取組企業認証を受けており、職員のハラスメント防止研修の実施、育児休業の取得促進など雇用環境の向上に努めている。	関係法令を遵守し、雇用環境の向上に努めた。 社労士に委託し、相談窓口の設置や労務環境及び諸規則についての相談を行い、職員の労働環境の改善に繋げた。ハラスメント防止研修を全職員対象に実施し、職員の意識の向上に努めた。	職員の働きやすい環境となるよう適宜、財団の諸規則の見直しを行うとともに、職員の声にも常に耳を傾けながら、業務が平準化するように努めること。 労使協定(特別条項)で定める時間外労働時間をわずかに超えた月がある職員がいたため、労使協定を遵守するように助言し、その後は超過した職員がいないことを確認。時間外労働時間の把握は、労務管理の中核的な内容であり、職員の労務管理を適切に行うことは、施設を安定的に運営するにあたって非常に重要であることから、就業規則、労使協定等を遵守し、職員の労働環境の向上に一層努めること。

(3)施設・設備等の維持管理業務	▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)		A B C D
	▼ 災害時の対応について、財団で定めた消防計画、火災避難誘導要領、自衛消防組織編成等に即して、適切に役割分担を行い、利用者の安全確保に努めている。 また、緊急連絡網を作成し、有事に備えた連絡体制を整備している。 ・施設管理者賠償責任保険 対人賠償 1事故1,000,000,000円(免責なし) 1人 100,000,000円(免責なし) 対物賠償 1事故 50,000,000円(免責なし) ・レジャー・サービス施設費用保険 死亡1名あたり500,000円 後遺障害1名あたり500,000円 入院1名あたり ~100,000円 通院1名あたり ~50,000円 ・レクリエーション傷害保険 死亡・後遺障害1名あたり1,000,000円 入院日額1,500円 通院日額1,000円 ▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等) ▼ 清掃、警備、保守点検等について仕様書に基づき、適切に実施している。なお、設備保守、展示物保守、清掃、警備、エレベータ、エスカレータ保守、電話交換機保守、そ族害虫駆除、除雪、樹木芝生管理、自動扉、消防設備、吸収式冷凍機等、特殊展示物保守については、第三者委託により実施している。 ▼ 躯体の老朽化に伴う修繕については、札幌市教育委員会と調整を図り、対応した。 ▼ 機器設備等の故障箇所等については、可能なものは速やかに修繕を行った。大規模な設備の修繕に関しては、札幌市教育委員会と調整を図った。 ▼ 新規展示物の初期不良に対する対応や、効率的な運営について、措置を適正に行った。	各種災害に関する避難マニュアル等を作成し、定期的な防災訓練を行うことで利用者の安全確保に努めることができた。 第三者委託業務については、適正な管理監督を行い、業務完了時には完了報告書を受け、業務内容について監督した。確認後は毎月報告書を提出し委託業務の適正な管理等を行った。 施設・展示物の維持管理について、財団で修繕可能なものは速やかに修繕を行った。 リニューアルされた展示物についても、適正に管理した。	適宜、災害マニュアルの見直しを行う等、引き続き、利用者の安全確保の強化に向けた取組を期待する。 適切に取り組まれていることを評価する。 施設の老朽化への対応については、利用者だけでなく、近隣住民にも大きな影響を与える事故に発展する可能性があることから、教育委員会への密な連絡・報告を徹底すること。

	▽ 防災 ▼ 消防計画に則り、避難訓練を実施し避難誘導体制の確認に務めた。	開館時における火災発生を想定し、可能な限り現実に即した体制で防災訓練を実施した。常勤の職員のほか、各委託業者やパート職員を含めた館に係る全員が参加し、実施後は全員で振り返りを行い改善点や正しい知識を共有したことで、スタッフ全員の対応力の向上を果たすことができた。 また、訓練実施にあたり札幌市消防局に協力いただき、訓練の行い方について助言や訓練後に講評をいただいた。	適切に取り組まれており評価する。なお、公の施設であることを忘れずに今後も万全の準備をするよう努めること。								
(4)事業の計画・実施業務	▽ 科学及び科学技術に関する資料及び装置の展示 ▼ 常設展示 既存の展示物に加え、リニューアルした展示物についても適宜管理、展示、解説を行った。	リニューアル後初年度であり、多くの来館者が見込まれたため、混雑が予想される展示物に整理券発券機や短期アルバイトを配置した。 また、展示室内スタッフによる各展示物の解説や実演などを積極的に行うことで、リニューアルした展示室内の魅力を最大限に引き上げることができた。	<table border="1"> <tr> <th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr> <td colspan="4">過去最高の利用者数が訪れたにも関わらず、1年間を通して大きな事故も、展示物の長期休止もなかったことを高く評価する。</td></tr> </table>	A	B	C	D	過去最高の利用者数が訪れたにも関わらず、1年間を通して大きな事故も、展示物の長期休止もなかったことを高く評価する。			
A	B	C	D								
過去最高の利用者数が訪れたにも関わらず、1年間を通して大きな事故も、展示物の長期休止もなかったことを高く評価する。											

▼ 特別展等

・夏の特別展「科学捜査展 ―サイエンス町を救え!―」
31日間開催(来場者82,907名)
特別展会場を様々な「事件現場」に設定し、体験者自らが捜査に参加することで、捜査の中で利用されている科学原理や科学技術を学ぶ特別展を開催した。

・冬の特別展「勇者シリコンの大冒険～半導体ダンジョンを攻略せよ～」
14日間開催(来場者14,825名)
勇者が冒険するロールプレイングゲーム風の世界観の中で半導体の仕組みや半導体による様々な科学技術を体験的に学ぶ特別展を開催した。

・秋のスペシャルウィークス エネルギーの未来を考えよう!
9日間開催(来場者13,441名)
札幌市からの依頼により、GX(グリーントランスフォーメーション)に関する企画展を開催した。

・環境科学展
9/7開催(来場者1,372名)
企業や団体と連携し、環境問題と対策技術に関する実演や実験を実施した。

市民のニーズに応え、最新の科学技術をキャラクターや物語性を持たせた見せ方にすることで、子ども達の興味関心を高めることができた。
また、様々な企業や研究機関と連携し、最先端の情報を届けることができた。
夏・冬休み以外にも、GXに関する企画展を実施し、未来のエネルギー利用について考える機会を提供した。
再開館1年目として多くの来場者を集めることができ、リニューアルした科学館に足を運ぶきっかけを作ることができた。

複数の企業・団体に
出展を依頼し、来館者に環境問題等について考える機会を提供した。

再開館後も多くのイベントを実施したことを評価する。
今後も市民の科学や科学技術への興味・関心を喚起できるようなアウトリーチ企画を期待する。

▼ 先端科学技術講座 山崎直子宇宙飛行士特別講演会「これからの宇宙の仕事～未来の宇宙産業～」 1回 参加者173名	当館名誉館長である山崎直子宇宙飛行士にプラネタリウム内で講演いただいた。 山崎氏が子どものころに見た星空や国際宇宙ステーションから見た地球などをプラネタリウム内で再現する等の工夫を施し好評であった。	山崎名誉館長のイベントは幼児から高齢者まで幅広い層から人気がある内容のため、今後も講演などを通して本市科学館のPRに協力いただき、これまで科学に興味・関心がなかった方にも科学館に来館してもらえるようなイベントの実施に期待する。
▽ 科学に関する実習、実験及び講座等の開催		
▼ 学習実験室 団体予約で来館する小学4～6年生を対象に、教育課程に沿った内容で水や磁石を扱う実験教室を実施した。 151回4,354名	展示室での学校向けプログラムを充実させることができた。 多くの学校が利用し、実験や観察の楽しさを伝えることができた。	子どもから大人まで科学を楽しめる工作教室や実験室を実施していることを評価する。
▼ 科学館の工作室 科学原理の理解を深める機会を提供するため、小・中学生を対象に、簡単な工作教室を実施した。 通常(日祝) 153回 参加者1,609名 GW 18回 参加者219名 夏休み 39回 参加者450名 冬休み 15回 参加者108名	遊べる作品作りを通して科学原理の仕組みや道具の使い方などを学ぶ機会を提供できた。	実演展示は、本市の科学館の特徴的な事業であるとともに、来館者の興味・関心を高めることにつながる展示である。今後も、市民が楽しめる工夫をし、一人でも多くの方に興味を抱かせることを期待する。
▼ サイエンスショー 来館者とのコミュニケーションを図りながら科学への興味・関心を深めてもらえるよう、不思議な現象の紹介や楽しい実験などの実演ショーを行った。 1268回 34,534名 「炎いろいろ… 燃えかたのナゾをときあかせ！」ほか	サイエンスショーやワークショップなどの実演をとおして、科学や科学技術の知識を提供し、市民の興味関心を喚起することができた。	
▼ 日曜実験室 小中学生を対象とし、身近な題材や科学現象をテーマにした実験教室を実施した。 130回 参加者1,665名 「きたぞ！ 明かりのたいかくめい」ほか	身近な題材を取り上げた実験を行い、理科の面白さを伝えることができた。	

▼ 他団体との連携事業 企業展示出展企業によるミニセミナーなど、様々な団体とも連携し、それぞれの専門性を生かした科学教室・イベントを開催した。 JAXA、北海道赤十字血液センター、ポッカレモン(株)、札幌学院大学、厚別図書館 など22事業	科学館だけでは実施できないような専門性の高い講座や魅力的なイベントを行うことができた。 また、地域との連携も意識し、隣接施設や周辺地域団体との連携も積極的に行った。 連携先は学校団体、公共施設、一般企業等と多岐にわたった。	
▼ 展示解説ボランティア「フロアサポーター」の養成と活用 展示物の操作方法および原理・現象を説明するボランティアを養成する講座を実施し、修了生に対して月2回程度活動の場を提供した。 登録者数 14名	生涯学習としてボランティアの活動の場を提供することで、幅広い世代の学び合いが生まれた。また、来館者へのサービスが向上した。	
▽ プラネタリウム及び天文台による天文知識の普及啓発 ▼ 一般投影・特別投影 館のリニューアルオープンに伴い、長年要望が多かったプラネタリウムのオンライン予約を新たに導入した。再開館直後、かなり多くの方が来館されたが、事前の導入シミュレーションを入念に行ってきたため、大きな混乱はなかった。 また、通常の投影とは別に、特定のテーマ等を取り上げた特別投影を閉館後の夜の時間に行った。 一般投影 1,436回 参加者165,258名 特別投影 7回 参加者 1,248名	天文分野の基礎的な知識から最新の話題までを紹介するなど、広く市民に対して天文分野への興味関心を喚起することができた。再開館直後は来館者が相当に増えることを見込んで、しばらくの間、投影回数を1回増やすことで、より多くの市民のニーズにこたえた。	工夫によって、市民に利用していただく機会を増やしたことを大変評価する。今後も新たな利用者獲得、リピーター増に向けた番組の充実など工夫を期待する。

▼ 学習投影

小学校を対象に、学習指導要領及び各学校の教育課程を踏まえ、理科授業の一環として、天体の動きなどを学習するプラネタリウム投影を行った。

学習投影 151回 参加者 20,201名(小4:162校、小6:61校)

机上の学習では表現しにくい天体の動きについて、プラネタリウム内で再現することで児童・生徒の理解度を高めることができた。団体予約の受入れ担当と連携、協力し投影を希望していたほぼ全ての市内小学校の依頼にこたえることができた。

各学校のスカイライン(360度映像)を投影しながら、子どもたちにとってわかりやすく、効果的な学習となっていることを評価する。子どもたちの天体への関心が高まる工夫を今後も期待する。

▼ オート番組制作・購入

プラネタリウム投影時に上映するオリジナルのオート番組(ドーム全体に投影されるアニメーション動画)を青少年科学館の特色・独自性を生かして制作したほか、市販の番組上映権の購入等を進めた。

・制作

オリジナルオート番組「オーロラを見たい猫 ～虹色のカーテンを探して～」

・購入

「ドラえもん 宇宙の模型」、「ファーストコンタクト - もしも彼らと-」

太陽活動が活発化している近年、特に注目度が上がっているオーロラをテーマにした番組を制作したり、国民的アニメーション番組や知的好奇心を刺激する大人向けの作品を新たに購入することで、幅広い年齢層に向けた番組ラインナップを整えることができた。

幅広い市民に楽しんでもらえるような工夫を凝らした運営を行っていることを評価する。今後も、市民の利用増が見込めるような投影を期待する。

▼ 字幕付きプラネタリウム

耳の不自由な人もプラネタリウムを楽しめるように、字幕付きの投影を行った。

2回 参加者359名

字幕を付けることで耳の不自由な利用者にも健常者にもプラネタリウムを楽しんでもらうことができた。字幕を投影するプロジェクターの光が星空を邪魔しないように、特製のフィルターを自作し対応を図った。

▼ キッズプラネタリウム

未就学児とその保護者を対象に、童謡やクイズを取り入れた親子で参加できる特別なプラネタリウムの投影を行った。

2回 参加者400名

幼児向けの投影素材を充実させ、対象年齢に合わせた投影ができた。開催した2度とも早々に満席、売り切れとなったので、次年度は定例での開催を考えたい。

▼ プラネタリウム祭り

コンサートと投影を組み合わせたり、異分野の団体と連携した少し変わったジャンルの投影など、プラネタリウムの魅力を広く市民へ伝えるために、通常の投影とは異なった内容を取り入れたプラネタリウム投影を実施した。

4日間 観覧者3,061名

幅広いジャンルと組み合わせた内容のイベントを実施することで、プラネタリウムや星々の魅力を広く市民に伝えることができた。特に札幌と連携したプラネタリウムコンサートは、全ての回で満席となり、また、内容も非常に評判が良かった。

子どもだけでなく、大人も楽しめるようなイベントを開催し、より多くの市民にプラネタリウムの魅力を広める活動をしたこと評価する。

▼ さっぽろ星まつり

モエレ沼公園を会場に、市民の天文への関心を高めるため、宇宙に関するゲームや工作、天体観望会等を実施した。

2日間 参加者 約3,750名

天体を観望するのに適した場所で事業を実施することで、市民の天文への興味を高めることができた。昨年度に引き続きモエレ沼公園を会場とした。昨年度は会場がやや狭く、全体的に混雑した状況であったため、今年度は広めの会場を確保するとともに、列整理に細心の注意を払った。それでも、イベントによっては長い行列ができたり、一時的に混み合うことは見られたが、昨年度と比較すると混雑状況は大きく改善された。

▼ 移動天文台

学校や町内会、青少年育成委員会などからの要請により、移動天文車と職員及び天文指導員を派遣し、望遠鏡を用いた天体観望や星空解説を行う観望会を実施した。

天体観望実施 22回、曇天対応(星の解説) 7回、中止 8回

広く市民に天体観望の機会を提供し、天文知識を普及することができた。コロナ禍の際に休止していた、「自由観望形式」(あらかじめ参加者を規定せずに、誰でも自由に参加できる形式の観望会)を再開し、市民の方々の多様な依頼に対応できるようにした。

▼ 移動プラネタリウム

青少年科学館に来館できない市内の小中学校等を対象に、移動式プラネタリウムを用いた投影を実施した。

40回 参加者949名

地理的な問題などで来館が難しい子どもたちにもプラネタリウム投影を見ることができた。特に、院内学級や特別支援学校のような外出そのものが難しい子どもたちにとっては、貴重な機会を提供できた。

アウトリーチ活動は、新たな利用者の獲得につながる。とともに、科学館に来館できない子どもたちにとっての貴重な学習機会の提供となることから、更なる事業の拡大を期待する。

▼ 札幌市天文台

天文に関する興味・関心を高めるため、札幌の中心部にある中島公園内の札幌市天文台を公開し、日中は太陽を、夜は季節の星座を中心に観望会を実施した。夜間公開はコロナウイルスの影響がほぼ見られなくなったことから、以前のように予約しなくても自由に訪れることができる体制に戻した。

641回(午前、午後、夜間すべて含む) 来台者
26,930名

太陽や季節の星座の星を中心に、広く市民に天体観測の機会を提供することができた。依然として、海外からの観光客が多く見られ、年間の来台者数は、過去最高の数字を記録した。来台者と思われる方々のSNSなどでは天文台スタッフの対応が好意的に書き込まれ、それが二次的に広がって更なる来台者に繋がるなど、ホスピタリティも高く評価されたと感じている。

昼間、夜間公開を通して、多くの市民等に天文に関する知識の普及啓発を行い、観覧者数が過去最高の2万人を超えたことを評価する。嘱託職員の入れ替えがあってもこのような取り組みが継続できるよう、具体的な計画等を策定すること。

▼ 宇宙セミナー

宇宙に対する市民の興味・関心を高めるため、第一線で活躍する専門家を招き最新の天文情報に基づく講座を実施した。

講師: JAXA第一宇宙技術部門 衛星利用運用センター技術領域主幹 村木 祐介 氏

1回 参加者167名

宇宙天文分野の最新情報を含む貴重な話を、一般の方々に伝える良い機会となった。講師は難しい話をかみ砕いて話すことに長けており、子どもたちの関心を上手に引き出す一方で、大人の方々が興味を抱きそうな先端技術やその使われ方についてもわかりやすく解説するなど、全体的に満足度の高い講演会を行うことができた。

▼ 大人のための天文教室

これから星空を楽しみたいという初心者を対象とした星の基礎知識や星座早見盤の使い方を学ぶ基礎講座「やさしく学ぶ星空教室」、天体写真の撮影方法等について学ぶ「はじめての天体写真講座」、中級者向けの「詳しく学ぶ天文教室」を実施した。
 やさしく学ぶ星空教室 1講座(全3回) 参加者28名
 はじめての天体写真講座 1講座(全2回) 参加者15名
 詳しく学ぶ天文講座 1講座(全3回) 参加者40名

▼ 親子天文教室

楽しみながら基礎的な天文知識を身につけ、天体への興味・関心を深めてもらうため、小学生とその保護者を対象に、天文工作と天体観測を組合わせた天文教室を実施した。
 6回 受講者99組247名

▼ 天文指導員の養成

天文に興味を持っている学生や一般市民に定期的に研修や天文事業への参加機会を提供し、天文普及の一翼を担う人材を養成した。

天文指導員登録者総数 43名

初心者から中級者へ向けて、レベルに沿った天文教室を行い、市民への天文知識の普及啓発を図った。

親子で天文現象等について学べる機会を提供し、親子の触れ合いと天文分野の魅力を伝えることができた。

毎月の定例研修や移動天文台での天文解説、天文台夜間公開の補助など、様々な活動機会を設け、天体観測の基礎的な知識を身に付けるとともに、一般の方々に対して、物事を「伝える」技術を学ぶ機会を提供した。

老若男女問わず学習できる場として寄与していることを評価する。引き続き幅広い世代への学習機会の提供となる取組に期待する。

専門的な人材確保のため、継続的な取組を期待する。また、研修機会を通して、職員・ボランティア間の連携を強化し、より市民にとって効果的な事業となることを期待する。

	▼ 天文情報リーフレット「星空散歩」の発行 季節ごとの天体の様子や天文トピックスを掲載し、館内及び市内公共施設等で配架した。 6回(5・6月号、7・8月号、9・10月号、11・12月号、1・2月号、3・4月号) 計50,000部 ▽ 展示資料等に関する調査研究及び関係機関等との協力 ▼ 科学系博物館等と連携し、協会等が主催する研修への参加や各種会合へ出席することで、現状の把握、今後の展望、対策など幅広く情報交換した。 ・北海道青少年科学館連絡協議会総会及び第1回館長会議(北海道青少年科学館連絡協議会) ・道央地区博物館等連絡協議会総会(道央地区博物館等連絡協議会) ・指定都市科学館連絡協議会(指定都市科学館連絡協議会) ・全国科学博物館協議会理事会・総会(全国科学博物館協議会) ・全国科学館連携協議会北海道ブロック会議及び第2回北海道青少年科学館連絡協議会館長会議(北海道青少年科学館連絡協議会) ・全国科学館連携協議会幹事会・総会・国内研修会 ・ミュージアムマネージメント研修 ・北海道プラネタリウムWG研修会in札幌 研修担当館(日本プラネタリウム協議会) ・全国プラネタリウム大会・横浜(日本プラネタリウム協議会) ・北海道青少年科学館連絡協議会職員研修 ・北海道中学校理科研究会 札幌大会 ・科学館・博物館若手職員向けグローアップ研修交流会 ・CISEネットワーク会議 ・かるちゃんネット	季節ごとの天体情報に加え、流星群などの旬の天文現象を市民に提供し、広く情報の発信に努めることができた。 関係機関が主催する会議や研修へ参加し、積極的な情報交換を行うことにより、職員の資質向上につなげることができた。	様々な研修に取り組み、職員のスキルの向上につなげたことを評価する。																												
(5)施設利用に関する業務	▽ 利用件数等 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>R5年度実績</th><th>R6年度計画</th><th>R6年度実績</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>展示室</td><td>0</td><td>335,000</td><td>409,306</td></tr> <tr> <td>プラネタリウム</td><td>0</td><td>128,000</td><td>185,442</td></tr> <tr> <td>総計</td><td>0</td><td>463,000</td><td>594,748</td></tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業参加者数</th><th>77,504</th><th>62,400</th><th>87,951</th></tr> </thead> </table> ▽ 利用促進の取組 ▼ オンラインチケットの導入により、事前にチケットを購入できるようになったことから、遠方からの来館時も、プラネタリウムの残席を気にせず来館する事が可能となり、利用促進につながった。 ▼ プラネタリウム年間パスポートの導入により、リピーターの確保につながった。 ▼ 実験室のリニューアルに伴い、市内小学生を対象に「学習実験室」を開催し、学習機会の提供に寄与することができた。(4,354名参加)		R5年度実績	R6年度計画	R6年度実績	展示室	0	335,000	409,306	プラネタリウム	0	128,000	185,442	総計	0	463,000	594,748	事業参加者数	77,504	62,400	87,951	再開館に伴い導入したオンラインチケット購入システムにより、オンラインチケット購入者のスムーズな来館と、当日発券窓口での待ち時間の短縮に繋がりが、混雑緩和と利便性向上に繋がった。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">過去最高の利用件数となったが、混雑対策を行うなど、利用者のストレスの軽減を図ったことを評価する。今後も多くの市民に科学および科学技術の普及に資する取り組みを期待したい。</td></tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	過去最高の利用件数となったが、混雑対策を行うなど、利用者のストレスの軽減を図ったことを評価する。今後も多くの市民に科学および科学技術の普及に資する取り組みを期待したい。			
	R5年度実績	R6年度計画	R6年度実績																												
展示室	0	335,000	409,306																												
プラネタリウム	0	128,000	185,442																												
総計	0	463,000	594,748																												
事業参加者数	77,504	62,400	87,951																												
A	B	C	D																												
過去最高の利用件数となったが、混雑対策を行うなど、利用者のストレスの軽減を図ったことを評価する。今後も多くの市民に科学および科学技術の普及に資する取り組みを期待したい。																															

(6)付随業務	▽ 広報業務 ▼ リニューアルされたことに伴う、テレビや新聞等各社マスコミの多くの取材対応を行い、PRを行った。 ▼ 昨年リニューアルしたホームページが利用者にとってより見やすくなるよう、おすすめのイベント情報を目立つように表示させるような機能を新たに追加し、科学館の情報発信に務めた。 また、ウェブアクセシビリティの向上のため、JIS X 8341-3:2016「附属書 JB(参考)試験方法」に基づき検査を行い、レベルAA準拠であることを確認した。 ▽ 引継ぎ業務 ▼ 前年から継続指定のため、引継ぎ業務なし。	マスコミ対応では、素材提供だけでなく、可能な限り直接職員が出演し説明することで具体的なPRにつなげた。 ホームページの構成を工夫し、利用者に伝わりやすい情報発信を心がけた。	<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr></table> 今後も事業の紹介や結果を含め、幅広い世代の方にわかりやすく伝え、利用者増につながるような工夫した取組を期待する。	A	B	C	D
A	B	C	D				
2 自主事業その他							
▽ 自主事業 ▼ 売店/事業 売上高 21,936,670円 ▼ 自動販売機/事業 収入額 8,128,825円 ▼ その他 収入額 216,676円 企業等から依頼を受け、サイエンスショー等を行った。 (あつベンチャー、西区まちづくり協議会、ミュージアムマネジメント研修会、留寿都村、札幌学院大、エア・ウォーター) ▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等 ▼ 物品・印刷物・消耗品等の調達については、特殊なものを除き、札幌市内の企業等に発注し、積極的な活用に努めている。また、業務の再委託について、入札の指名にあたり、業務内容等を踏まえ優先的に札幌市内の企業等を選定した。 ▼ 物品の購入・印刷物作成などの発注を行う際、その内容・金額等の条件が許す範囲において、社会福祉団体等を活用した。 ▼ 事業運営において、障がい者が利用しやすい環境づくりに取り組んだ。 ・字幕付きプラネタリウムの実施	売店では来館者のニーズに応えるため、特別展やプラネタリウムのイベントに合わせた科学グッズを販売し、収入増につながった。 様々な団体の依頼に応え、イベントを行うことができた。 聴覚にハンディがある方へ向けた字幕付き投影の実施など事業実施時に、障がい者が利用しやすい環境づくりに取り組むことができている。	<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr></table> 科学館の価値を高めるため、自主事業の積極的な展開に期待したい。 引き続き、市内企業、社会福祉団体の活用を期待する。 多様な市民が利用しやすい場となるよう工夫がされており、評価する。	A	B	C	D	
A	B	C	D				

3 利用者の満足度

▽ 利用者アンケートの結果						
実施方法	来館者へアンケートへの協力を呼びかけ、サンプリング調査を実施した					
結果概要	回答数：目標400件に対し、697件 科学館全体の満足度(目標80%) とてもよかった(43.2%)／よかった(54.5%)／ふつう(2.0%)／よくなかった(0.3%)／とてもよくなかった(0%) 職員の対応(目標80%) とてもよかった(44.3%)／よかった(53.7%)／ふつう(1.7%)／よくなかった(0.2%)／とてもよくなかった(0.1%) 科学館における事業に関する満足度(目標80%) とてもよかった(68.4%)／よかった(22.6%)／ふつう(8.6%)／よくなかった(0.4%)／とてもよくなかった(0%)					
利用者からの意見・要望とその対応	【意見・要望】 ・団体予約を電話のみでなく、FAXでも受け付けてほしい ・人気のある展示物は事前に整理券を配布していたが、整理券を取得したまま戻らない来館者がおり、他の来館者が利用出来ないことがある 等 【対応】 ・先着で駐車場やプラネタリウムの座席を取り合うことから電話のみでの受付としていたが、次年度の一般団体予約受付において一部FAXによる一斉受付を導入した。 ・一部の展示物で整理券の配布を取りやめ、来館者に直接並んでいただくこととした					
		科学館全体の満足度についてのアンケート結果は「とてもよかった・よかった」が95%以上となっており、利用者にとって満足度が上がったことがうかがえる。	A	B	C	D
		寄せられたご意見に関しては、すぐに対応することが難しいものについても真摯に受け止め、将来的なサービス向上へつなげていきたい。	全てのアンケート項目において、「とてもよかった・よかった」の割合が目標を10ポイント以上上回っており、リニューアル初年度において、利用者の満足度が高い結果となったことを評価する。一方で、リニューアル前と比べて、科学館全体の満足度と職員の対応の項目で、「とてもよかった」の割合が10ポイント以上減少していることから、今後は、高い満足度を維持しつつ、「とてもよかった」と感じていただける人が増えるような取組みを期待したい。			

4 収支状況

▽ 収支 (千円)

項目	R6年度計画	R6年度決算	差(決算-計画)
収入	493,871	559,170	65,299
指定管理業務収入	481,121	528,888	47,767
指定管理費	364,105	354,811	▲ 9,294
利用料金	105,030	156,678	51,648
その他	11,986	17,399	5,413
自主事業収入	12,750	30,282	17,532
支出	503,683	504,785	1,102
指定管理業務支出	490,762	484,497	▲ 6,265
自主事業支出	12,921	20,288	7,367
収入-支出	▲ 9,812	54,385	64,197
利益還元	0	0	0
法人税等	60	1,092	1,032
純利益	▲ 9,872	53,293	63,165

▽ 説明

▼指定管理業務収入には、賃金スライド、光熱費補填を含んでいる。

▼指定管理業務支出は計画よりも、委託費の削減ができた。

▼自主事業収入と支出の増加は、主に売店売上高と自動販売機収入の増加と、それに伴う売店仕入れ費用の増加が要因。

リニューアル初年度で、広報活動にも力を入れたことにより、来館者数が大幅に増加し、利用料金や売店等自主事業収入も増加となった。指定管理業務支出については、設備業務委託費を削減することができたため支出を抑えることができた。以上のことから令和6年度決算の純利益は53,293千円となり、単年の収支では大幅な黒字となった。

A B C D
計画よりも自主事業収入を増やしたことを評価する。次年度は利用料金収入が減少すると予想されることから、収入と支出のバランスをとり健全な運営に努めていただきたい。

<確認項目> ※評価項目ではありません。

▽ 安定経営能力の維持

▼ 当団体の財務状況等は良好である。

適 不適

▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応

▼ 各条例の規定に則り、全て適切に対応している。

▼ 情報公開請求は無かった。

▼ オンブズマン対応は無かった。

▼ 協定に関する契約(第三者への委託、物品調達等)について、暴力団員や暴力団関係事業者を相手に契約を行わなかった。

適 不適

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	次年度以降の重点取組事項
展示物大規模 リニューアル及び施設の長寿命化等の改修工事に伴い、令和5年度は休館していたが、令和6年4月に再開館し、開館以来最多の来館者を迎えることができた。特に再開館直後とGW期間は非常に混雑していたが、新たに取り入れたオンラインでの事前予約の効果で、発券や入館の待ち時間を従前より大幅に減らすことができた。 展示事業については、夏休み冬休み期間にそれぞれ「科学捜査」「半導体」に関する特別展を実施した。道内で機運が高まる半導体のテーマでは、千歳市に工場を建設しているラピダスや、今後の半導体分野の人材育成を担う北海道大学や公立千歳科学技術大学などと連携して実施した。その他、環境教育に関連した「環境科学展」、札幌市が推進するGXに関する「秋のスペシャルウィークス エネルギーの未来を考えよう！」と題した企画展を、様々な企業団体と連携し実施することができた。 天文事業については、小学校4年生向けの「学習投影」、小さなお子様向けの「キッズプラネタリウム」、札幌交響楽団とのコンサート等の含む「プラネタリウム祭り」など、様々な層に向けたプラネタリウムの投影を実施した。その他、「移動天文台」「さっぽろ星まつり」等を市内各地で実施し、天体観望の機会を提供することができた。また、新たに取り入れたプラネタリウム年間パスポートやスタンプカードによる特典でリピーターの確保に努めた。	令和7年度は、再開館から1年を迎えるが、科学館の設置目的を達成するための事業の水準が例年を下回らないよう注力するほか、新展示物のメンテナンスなど維持管理に努める。 リニューアル需要や露出増が落ち着いてくることが予想されるが、夏休み冬休み前等効果的タイミングで取り上げてもらえるよう、計画的に報道機関等に働きかけていく。また、リニューアル需要で来館した方が繰り返しリピーターとして来館して楽しんでいただけるような取り組みを検討していきたい。
【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
再開館により、過去最高の観覧者数に達したにも関わらず、常設展示のみならず、実演展示、企画展示、特別展示、アウトリーチ事業などにより幅広い市民に科学を楽しく学べる場を提供しており評価する。 リニューアル等により、初めて科学館を訪れた市民が、再度訪れたいと思っていただけるような一層市民に親しまれる施設となることを期待する。 また、令和7年度はリニューアル2年目となり、リニューアル効果が薄れることが予想されることから、自主事業や他企業との連携や、イベントの開催をするなど、市民にとって科学を楽しく学べる場を引き続き提供するためにはどのようなことが可能かという視点を持ち、運営するよう努めること。	業務検査において、労使協定で定める時間外労働時間を超過した事例が判明したため、改善するよう助言し、その後は超過した職員がいないことを確認した。令和6年度はリニューアルに伴って業務が繁忙となり、時間外労働時間が増えてしまったものと推察されるが、その分、職員の労務管理に気を配る必要があったと考える。今後は職員の労働環境の向上に一層務め、より良い利用者サービスの提供に繋げていきたい。